

# 危機を脱した世界遺産

## 第4回 ケルンの大聖堂

ドイツ連邦共和国ノルトライン・ヴェストファーレン州  
登録基準 i ii iv 1996年登録

### 【ケルン大聖堂の歴史】

ケルンに最初の木造大聖堂が建立されたのは9世紀後半。1164年貴重な聖遺物・東方三博士の遺骨が納められ、多くの巡礼者が訪れるようになった。石造大聖堂の建設は、アミアンの大聖堂をモデルとして1248年に開始された。1320年に内陣のみが完成したが、以後はケルン商人の没落とともに資金難に陥りしばしば工事が停滞した。1559年までに聖歌隊席・袖廊・長堂・未完成の南塔が出来上がっていたが、以後は完全に中断した。1814年、ドイツがナポレオンからの解放戦争に勝利したまさにその年、長い間失われていた設計原図が発見された。戦勝後のドイツ精神の鼓舞とドイツ文化復権の風潮に支えられ、1842年に盛期ゴシック様式の忠実な再現を目ざして工事が再開された。1880年10月15日、遙か上空に聳える南塔の頂華(チョウゲ)に完了石が置かれた。着工から実に632年目。かつて神聖ローマ帝国の名のもとにドイツがヨーロッパに君臨した中世に、ドイツ人が構想した大聖堂は、三十年戦争以来200年以上にわたって小国分裂状態の辛酸を経てきた後、1871年に成立した統一国家ドイツ帝国とドイツ・ナショナリズムの記念碑となった。大聖堂の塔は高さ156m、当時では世界一高い建造物であった。



写真提供:ドイツ観光局



写真提供:ドイツ観光局

### 【危機遺産登録の背景とその後の取り組み】

第2次世界大戦による被害は大聖堂のみならずケルン市街全域に及び、大聖堂周辺を含めて戦後には近代的な再開発がなされてきた。その動きはライン川のホーエン・ツォレルン橋対岸エリアと1本南のドイツ橋対岸に超高層ビル群の建設計画にまで至り、しかもその1棟がすでに建設されてしまった。一方で世界遺産に対しては、近年文化的景観を重視する考え方が強い。しかもケルン大聖堂が世界遺産に登録された基準は、「人類の創造的才能を表す傑作」であり、「人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式や景観の見本」であった。ケルン大聖堂は、ケルンの景観を際立たせてきた中心的存在に他ならない。また世界遺産登録にあたっては周辺の規制地域であるバッファゾーンの設定が必要であるにも拘わらず、ケルン市当局がそれを怠っていた。2004年危機遺産登録後も、ケルン市長などビル建設促進派は、ビル群がケルンの経済発展に不可欠と強調し、都市景観重視派との論争が続いた。しかしビル建設と経済活性化との関連性が論証されず、世界遺産登録抹消と観光客減少のマイナス面が深刻とされた。ケルン市はバッファゾーンの設定やビル建設計画の一時停止・高さ制限を行い、2006年辛うじて危機遺産リストから解除された。

### 執筆者プロフィール

城戸一夫 (きどかずお)

1936年東京都出身。日本ユネスコ協会連盟評議員。早稲田大学第一文学部・同大学院文学研究科博士課程単位取得。西洋史学専攻。



**AIU保険会社**  
エイアイユー インシュアランス カンパニー  
A Member of American  
International Group, Inc. **AIG**

〒100-8234 東京都千代田区丸の内1-1-3  
旅行保険カスタマー・センター  
03-5611-0799  
www.aiu.co.jp/travel

AIU保険会社は、  
世界遺産アカデミーの活動を  
応援しています。



この印刷物は大豆油インク  
を使用しています